

Museum News

菅江真澄資料センター

秋田県立博物館ニュース



収蔵資料紹介（真澄部門）

菅江真澄像

菅江真澄資料センターに新たに寄贈された菅江真澄像です。当センターに新たな常設展示物が加わるのは、開設22年目にして、初めてのことです。ぜひ多くの来館者に実物を見て頂ければと思います。

目次

表紙・目次 P.1
企画展・特別展紹介	
（報告）特別展 妖怪博覧会 ～秋田にモノノケ大集合！～ P.2
（報告）企画展 足もとの久保田城下 －掘り出された武家の暮らし－ P.4
学芸ノート	
（地質部門）博物館にある温泉から誕生した展示物 P.5
（歴史部門）秋田市電にゆられましょう －八代伯郎鉄道資料 秋田市電関係資料の紹介－ P.6
（真澄部門）菅江真澄資料センターの新たな「顔」 ～菅江真澄像除幕式～ P.7
博物館の風景 P.8

特別展 妖怪博覧会

～秋田にモノノケ大集合！～

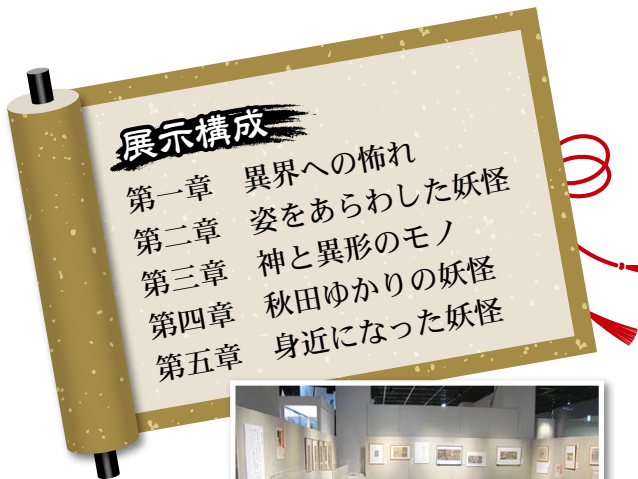
平成29年7月15日(土)～8月27日(日)



妖怪とは何かという問いに対する一つの答えに、未知なるものに対して、畏怖や憧憬の気持ちを抱いてきた人々が、それを克服するために具現化していった姿ではないかとする考え方があります。畏怖の対象であった妖怪が、時代が移るにつれて擬人化され、個々の性格を持つようになると、妖怪と人間の距離感に変化してきたように思われます。

本展では約200点の県内外の妖怪に関する絵巻や冊子などを紹介いたしました。怖ろしい姿をしたもの、どこか憎めない姿をした妖怪の姿は、時代や地域によって異なり、妖怪の姿から背景にある人間社会を見ることもできます。そうした県内外の妖怪の姿を、展示の中で楽しんでいただけたものと思います。

本展に際し、展示協力をいただきました国立歴史民俗博物館をはじめ、県内外の関係各位の皆様にご心より御礼を申し上げます。



付帯事業

- 1) 盆踊りとバリ舞踊と怪談と妖怪展
日程：7月15日(土)
- 2) 講演会
 - ①日程：8月5日(土)
演題：「異界への想像力
～妖怪や幽霊となった人・もの・動物～」
講師：山田慎也氏 (国立歴史民俗博物館民俗研究系准教授)
 - ②日程：8月27日(日)
演題：「妖怪と風聞」
講師：常光徹氏 (国立歴史民俗博物館名誉教授)
- 3) バスツアー「男鹿半島 オノと伝説をめぐるツアー」
日時：8月19日(土)
- 4) ナイトミュージアム「懐中電灯で妖怪展を見よう！」
日時：7月29日(土)、8月5日(土)、8月19日(土)
- 5) 展示解説
日時：7月16日(日)、8月27日(日)を除く毎週日曜日



秋田にあった！ 百鬼夜行絵巻



百鬼夜行絵巻 (個人蔵)

美郷町六郷本覚寺の住職であった白雲(一七六四～一八二五)による百鬼夜行絵巻の写しです。この百鬼夜行絵巻には順序が異なるものの、真珠庵本系(京都府徳大寺蔵 重要文化財)の妖怪が描かれています。

妖怪が闊歩する



百鬼夜行（東北大学附属図書館蔵）

妖怪の姿から、東京国立博物館蔵の百鬼夜行絵巻の系統であると思われる。道具や動物が変化した妖怪の姿が描かれています。

恐ろしい鬼



大江山酒吞童子絵巻（国立歴史民俗博物館蔵）

酒吞童子は、大江山に住む鬼の統領の名です。日中は垂髪の童子姿ですが、夜になると鬼に変身します。京の都で悪行を繰り返してきた酒吞童子を、源頼光と四天王である渡辺綱、坂田公時、碓井貞光、卜部季武らが討ち取ります。

久保田城下にいる妖怪



久保田城下百物語（秋田県公文書館蔵）

久保田城は秋田藩主佐竹氏の居城です。ある夜、久保田城下の武士たちが百物語をしようと計画していたことを聞きつけ、化け物の大将である三つ目入道が、久保田城下の妖怪達を集めて武士たちを驚かせるというストーリーで、手下の一つ目小僧が妖怪たちのもとへ触れまわりに行く様子がユーモラスに描かれます。

あの世のすがた



熊野観心十界曼荼羅図（宝性寺蔵）

日本人の死生観を大画面に展開させた宗教絵画です。上段に人の一生を描いた「老いの坂」、中段に来世の転生と十界と結ばれた現世の心、下段に地獄の世界が描かれます。熊野信仰を広めるために、熊野比丘尼と呼ばれた宗教者が用いました。

未来を予言する獣



錦絵 猿のかたちの光物（国立歴史民俗博物館蔵）

尼彦という猿の形をした三本足の生き物で、今の熊本県に出現しました。尼彦は数年続く豊作と病気の流行を予言しますが、自らの姿を貼れば災いを逃れられると言いました。不思議な姿の生き物が予言をする錦絵や刷り物は江戸時代後期から明治時代にかけて流行し、護符の役目も担っていました。

（民俗部門 丸谷仁美）



平成29年4月26日(水)～6月25日(日)

企画展

足もとの久保田城下 -掘り出された武家の暮らし-

近年、秋田市中心市街地の開発に伴い、江戸時代の遺跡発掘が大きく進展しています。武家屋敷地のほか、久保田城の堀、中土橋などが発掘され、そこから徐々に久保田城下の暮らしが明らかとなってきました。アスファルトをめくればそこは江戸時代。出土遺物を手がかりに、考古学と歴史学の調査成果をあわせ、久保田城下の暮らしを復元する試みとして、本展を企画しました。



入口のスライド



武家屋敷から出土した陶磁器



発掘現場再現コーナー

展示は、過去と現在の様子が代わる代わる映し出されるスライドにはじまり、「久保田城下絵図」にみる久保田城と城下町の誕生、武家の暮らしを生々しく伝える数多くの出土品、個性溢れる城下の人々の姿が描かれた「秋田風俗絵巻」、城下町の名残を留めた古写真や古地図が続く構成となっています。

一見すると失われてしまった江戸時代が、足もとのほんの数センチ下に眠っていて、街を歩けば道路の配置や地形に驚くほど城下町の姿が残されていることを、実感していただけたのではないのでしょうか。



秋田風俗絵巻

また、関連イベントとして開催した「ブラ★くぼた～絵地図片手に御城下散策～」は大変好評で、ふだん見慣れた街の景色の中に歴史を感じていただく絶好の機会となったようです。



ブラ★くぼた～絵地図片手に御城下散策～

展示構成

- 第1章 城下の誕生
- 第2章 掘り出された武家の暮らし
- コラム 県内近世遺跡の発掘成果
- 第3章 うごめく人
- 第4章 消えゆく痕跡

(考古部門 加藤 竜)

博物館にある温泉から誕生した展示物

昔から多くの方に愛されているのが温泉です。温泉について関心のある県民の皆さんも多いのではないのでしょうか。今回は、自然展示室にある、温泉（熱水）から生まれた資料を紹介します。皆さんのなかには「博物館と温泉」と聞いてもピンとこない方もいるかもしれません。「博物館と火山活動」ならどうでしょうか。火山の多い本県には温泉もまた、多くあります。温泉水にはさまざまな成分が溶け込んでおり、温泉特有の鉱物や沈殿物（温泉華）ができます。温泉華は、主成分の違いから、硫酸塩華、珪華、石灰華、硫黄華、鉄華などに分類できます。身近なところでは、家庭で気軽に温泉気分を味わえる「湯の花（華）」がその一つです。とはいっても、温泉で作られる「湯の花」の流通量は少なく、多くの方はテレビのコマーシャルでお馴染みの人工的に作られた入浴剤で楽しんでいるのではないのでしょうか。本県では特徴ある温泉華が温泉各地で見つかっています。その中でも産出地が限られ、希少性が高いのが北投石と鯛状珪石です。

北投石は台湾の北投温泉で最初に発見され、その後、仙北市の玉川温泉で見つかったものです。鉛を含む重晶石の一種で放射能を持つ鉱物です。温泉華の分類では硫酸塩華に含まれます。他に産地がなく学術的に大変価値があります。このため、玉川温泉の北投石は大正11（1922）年10月12日に国の天然記念物に、さらに昭和27（1952）年3月29日に国の特別天然記念物に指定され、保護さ

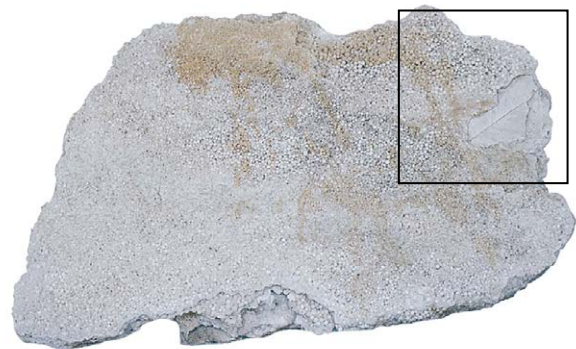


北投石

れています。北投石は年間に0.062mm～0.25mmの範囲で成長することが複数の研究者から報告されています。展示している標本は約3cmの厚さがありますから、大変長い年月をかけてできたことは確かです。

鯛状珪石は、温泉沈殿物が層状に堆積し、複数の層に魚卵状の珪華を含有しています。形状がハタハタの卵に似ているため、地元ではプリコ石と呼ばれています。魚卵状の部分は、温泉成分の二酸化珪素が細かい石片や、微小な石英などを核にして徐々に卵状に成長したものです。標本では、表面に白灰色や褐色のさまざまな大きさの粒状物が観察できますが、直径1.5mm～4mmほどのものが多数を占めます。厚さは10cmほどで、魚卵状になっていない層には、「木の葉石」（植物仮像）を確認することができ、生成時の環境を知ることができます。鯛状珪石は大正13（1924）年12月9日に「鯛状珪石および噴泉塔」として国の天然記念物に指定されています。

当博物館には、この二つの温泉華の他にも主成分や形状が異なる県内各地の温泉華が展示されています。是非、一度ご覧ください。



鯛状珪石

上の写真を
一部拡大

(地質部門 築瀬圭二)

秋田市電にゆられましょう

—八代伯郎鉄道資料 秋田市電関係資料の紹介—

昭和四〇年十二月営業終了時の停留所

秋田駅前

公園前

産業会館前

田中町

県庁前

平成29年（2017）3月、秋田県の鉄道趣味界の草分け的存在であった八代伯郎氏の鉄道資料が御遺族により博物館に寄贈された。膨大な鉄道資料を整理する中で、秋田市電関係の写真や実物資料が400点以上見つかった。

秋田市電は明治22年（1889）7月に開業した秋田馬車鉄道が前身で、幾多の変遷を経て昭和26年（1951）2月に秋田駅前～土崎間が開通する。「市民悲願の全線開業」と言われたが、昭和40年（1965）12月31日に営業運転終了となり、翌年3月31日に廃止された。市電の全線運行は14年という短い期間であるが、路面電車の姿は、いまだ市民の中に温かい記憶となって残っている。

博物館では、本年3月末から6月上旬にかけて県立図書館・県立美術館で出張展示「秋田市電にゆられ展」を開催し1万人以上の方に御観覧頂いた。そこでこの頁では八代伯郎鉄道資料の中から、昭和40年の営業運転終了直前に撮影された写真を紹介し、当時の様子を振り返ってみよう。



この写真は公園前停留所である。道は広小路、電車の向かう先は秋田駅である。当時広小路は対面通行で、道の中央を電車が走っていた。電車の乗降客は車道を渡らねばならなかった。クルマ社会の到来と共に、路面電車廃止賛成の声が高まったことが窺える写真である。



次の写真は、新国道にあった県庁前停留所である。秋田市電は全線単線で、廃線時に上下線の行き違いができた停留所は県庁前、八柳、将軍野だった。これらの停留所で上下線が行き違う際は、タブレット（通票）の交換を行った。タブレットを持つ列車のみ線路を走ることができるようにして安全確保を図るのである。ちなみに現在、旅客列車の運行にタブレットを用いているのは全国で3社しかなく、そのうちの1社が由利高原鉄道である。写真のような場面が見たければ、同社を訪れることをお勧めする。



次は草生津川を渡る市電である。問題は橋。



橋には歩行者の通行を禁止する看板が立っていたが、右の写真のように渡る人もいたようである。



床下構造が見える路面電車マニア垂涎の一枚。

この車両は、大改修をくり返し現在でも使われていると聞く。岡山へ行く機会があれば、この車両に乗って、52年以上前の秋田の鉄道をゆられた気分ひたしてみたいものである。

（歴史部門 畑中康博）

新大工町車庫

日吉

八柳

将軍野

自衛隊前

竜神通

土崎

菅江真澄資料センターの新たな「顔」

～菅江真澄像除幕式～

秋田の地で桜の花がちょうど見頃を迎えた4月26日、菅江真澄資料センターにおいて、新たに寄贈された菅江真澄像の除幕式が行われました。

(表紙写真)

除幕式には像の制作者である西村公泉氏(京都市在住)、菅江真澄研究会の小笹鉄文会長をはじめ、たくさんの方々にお越し頂き、その数は50名ほどになりました。この真澄像が当センターに寄贈されることになった経緯と除幕式当日の様子について、ご紹介します。

愛知県名古屋市に香積院^{こうじやくいん}という曹洞宗^{そうとうしゆ}の寺院があります。この寺院近くに、般若臺^{はんんにだい}と呼ばれた隠居寺^{いんきよ}があり、そこに丹羽嘉言^{にわのかげん}(1742年～1786年)という人物が住んでいました。丹羽嘉言は画家であり、そしてまた漢学者でもありました。若き日の真澄が、般若臺で嘉言と交流していたことは昭和52年(1977)に刊行された『菅江真澄全集』別巻一の中で、内田武志による詳細な論が展開されており、その後の真澄研究における重要なトピックになっています。



香積院の山門



般若臺の文字

そうした中、昨年1月の当館学芸職員による香積院・般若臺訪問をきっかけに、香積院の檀家で

ある下村康子氏が、般若臺における嘉言と真澄の交流を知り、是非とも名古屋における二人の縁を秋田の方々にも知ってもらいたい、そしてその架け橋となるべく、真澄像を秋田県立博物館に寄贈したいと望まれ、今回の除幕式を迎える運びとなりました。

除幕式では、香積院とも縁深く、今回の真澄像の制作に当たった西村公泉氏より制作の裏話も披露されました。一番苦労したのは「常かぶりの真澄」のトレードマーク、「頭巾」の部分であったそうです。(後年の真澄はいつも頭巾をかぶっていたため、周囲から「常かぶりの真澄」と呼ばれることもありました)真澄の肖像画(当センターに常設展示中)を参考にして制作したものの、肖像画からは頭巾の後ろの結び目がどのようになっていたかが分からず、西村さん自身がいろいろと想像を膨らませながら、苦心して制作されたそうです。西村氏にはどんな思いを込めて真澄像を作ったのかなどについて、大いに語って頂きました。



真澄像について語る西村公泉氏

この真澄像はこれから当センターの新たな「顔」として、たくさんの方をお迎えすることになります。30年近く秋田に滞在し、こよなく秋田に愛情を注いだ菅江真澄に思いを馳せながら、真澄像をご覧頂ければ幸いです。また、この像を契機として、真澄が若いころに学問の基礎を培った名古屋や愛知県での動向にも目を向けて頂ければ、今回の寄贈がとても意義のあるものになると思います。

(真澄部門：角崎 大)

博物館の風景

博物館では調査研究や資料収集、展示、教育普及などさまざまな活動をおこなっています。

展示



月替わり人文展示
「今月の三叉村ー村の事件簿ー」



ロビー展示
「楽しいしぼり染め作品展」



ふるさと広場展示
「七夕絵どうろう」

博物館教室



「夜の昆虫観察会」



「未来の学芸員養成講座」



「釣り教室」

イベントその他



「軒の山吹再現」



皇太子同妃両殿下行啓
「わくわくたんけん室で視察」



「盆踊りとバリ舞踊と怪談と妖怪展」



わくわくイベント
「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ」



「県立大連携講座」



「中堅教諭等資質向上研修」